



第1部  
はじめに

# 第1章 第六次吉見町総合振興計画策定にあたって

## 1. 「総合振興計画」は、何のためにあるのでしょうか？

まちづくりは、夢があって楽しいものです。しかし、一つひとつ高度で専門的なことが複雑に絡み合う現代社会において、それぞれの人が各自の都合で、それぞれが良いと考えるゴールを目指してまちづくりを進めると、ある分野で「良かれ」と思ったことが、別の分野にマイナスの影響を及ぼすことやお互いのタイミングがずれて、うまく協力できないということが起こります。

「総合振興計画」は、町民、事業者、各種団体、行政など様々な主体が、それぞれのスタート地点から目的地を目指せるように、それぞれの取組が、吉見町で暮らす人々にとってより良い未来へとつながるように、みんなが目指す『まちづくりの目的地』をセットしたナビゲーションです。

「総合振興計画」(ナビゲーション)は、どこを目指せば良いか教えてくれます。道に迷ったときも、目的地へ至る道筋を示してくれます。ただし、目的地へ到達するには、実際の状況に合わせた判断と、前に進むための一人ひとりの努力が必要です。

さあ、一緒にまちづくりをはじめましょう!!



**これだけは押さえよう!**

総合振興計画は、まちづくりのナビゲーション計画の実現には、一人ひとりの努力が必要です



**第一次総合振興計画には、どんなことが書かれていたの？**

### 〈吉見村総合振興計画基本構想〉

(昭和48年度(1973)～60年度(1985))

快適な生活をする為には山も、田も、畑も、沼もすべて必要です。価値のない様に見えても、実はこの村にとって素晴らしい貴重な財産なのです。勿論個人にとってもそうです。人口の多い事、便利の良い事、娯楽施設の多い事だけでは、何等私達の生活の上で幸せであるとは言えません。



40年以上前の計画なのに、どこか、いまのまちづくりにも通じているね。

## 2. 計画の構成と計画期間

(1) 構成（新しい総合振興計画のカタチ）

### よしみスタイル

－「事業管理型」から「目標管理型」の計画へ－  
Light（目標となる光）& Light（ボリュームは軽量化）

総合振興計画が  
担う部分

項目	内容
基本構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>■将来像・まちづくりの指標</li> <li>■基本的視点</li> <li>■ライフステージ別目標</li> <li>■人口規模とまちづくり</li> <li>■未来地図</li> </ul>
基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ライフステージ別目標がめざす姿</li> <li>■評価指標</li> <li>■めざす姿を実現するための取組</li> </ul>

（各種分野別計画等）



分野ごとに策定する各種計画は、  
総合振興計画と整合させます。

(2) 計画期間

和暦（年度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12		
西暦（年度）	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		
基本構想 （期間10年）	第六次総合振興計画											
基本計画 （期間5年）	前期基本計画					後期基本計画						
各種分野別計画 （各計画により、計画期間が異なる）	各種計画											
実施計画 （期間3年）	実施計画			実施計画			実施計画			実施計画		
※各種計画と財政状況などを踏まえてローリング方式で毎年度見直し												

## 第2章 吉見町の概況

### 1. 吉見町について

10年先、20年先を見据えたとき、みなさんが考えるまちづくりとはどんなものでしょうか。これから10年間のまちづくりで、私たちは何に気を付ければよいのでしょうか。まずは、吉見町について整理します。

#### ? 吉見町は、いつ誕生したの?

-A- 昭和29年(1954)に東吉見村、南吉見村、西吉見村、北吉見村の4つの村が合併して吉見村が誕生し、昭和47年(1972)に町制を施行して、吉見村から吉見町になりました。

#### ? 吉見町は、どんな特徴があるの?

##### -A- 【まちの位置】

・吉見町は、都心から50km圏、埼玉県のほぼ中央に位置する東西7km、南北8km、総面積38.64km<sup>2</sup>の町です。

##### 【まちの特徴】 ※町民の意見

- ・豊かな自然とのどかな田園風景
- ・歴史と多様な文化財(吉見百穴、松山城跡、吉見観音など)
- ・特産品としてのいちご
- ・ふれあい交流の拠点(道の駅いちごの里よしみ)
- ・極端に悪いところもないし、飛びぬけて良いところもない

中学生は、大人たちよりも吉見町を好きだったり、  
住みやすいと感じていたりするよ。

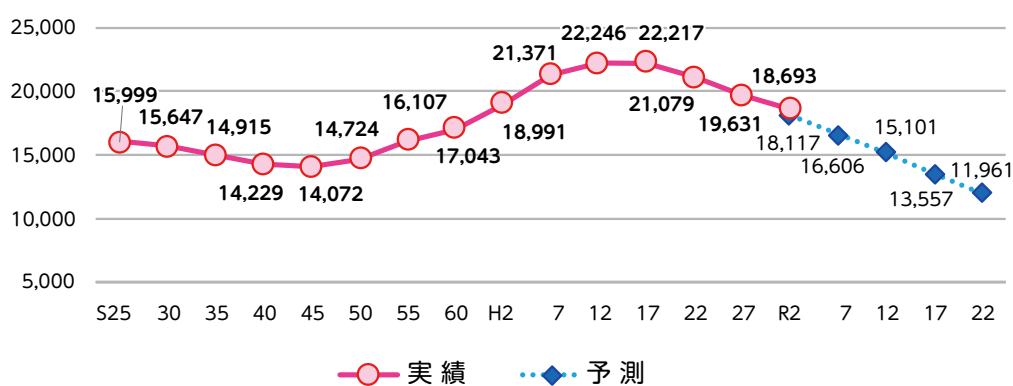
(p.13参照)



## 【まちの人口】

- ・ 昭和25年(1950)から平成27年(2015)までの数値は、国勢調査(各年10月1日が基準)の確定値です。
- ・ 令和2年(2020)10月の数値は、住民基本台帳の人口です。
- ・ 令和7年(2025)以降は、国立社会保障・人口問題研究所<sup>i</sup>(以下、「社人研」と略します。)が、国勢調査(平成27年度(2015))の結果に基づいて、吉見町の人口推移を予測し、公表している数値を引用しています。

過去の人口推移及び社人研予測



※町は、平成27年(2015)に様々な条件下のシミュレーションに基づいて、将来展望人口を推計し、「吉見町人口ビジョン」を策定しました。

平成27年(2015)10月から令和2年(2020)10月までの住民基本台帳人口の検証を踏まえ、「吉見町人口ビジョン」の将来展望人口については、社人研予測に合わせた数値へ改訂します。

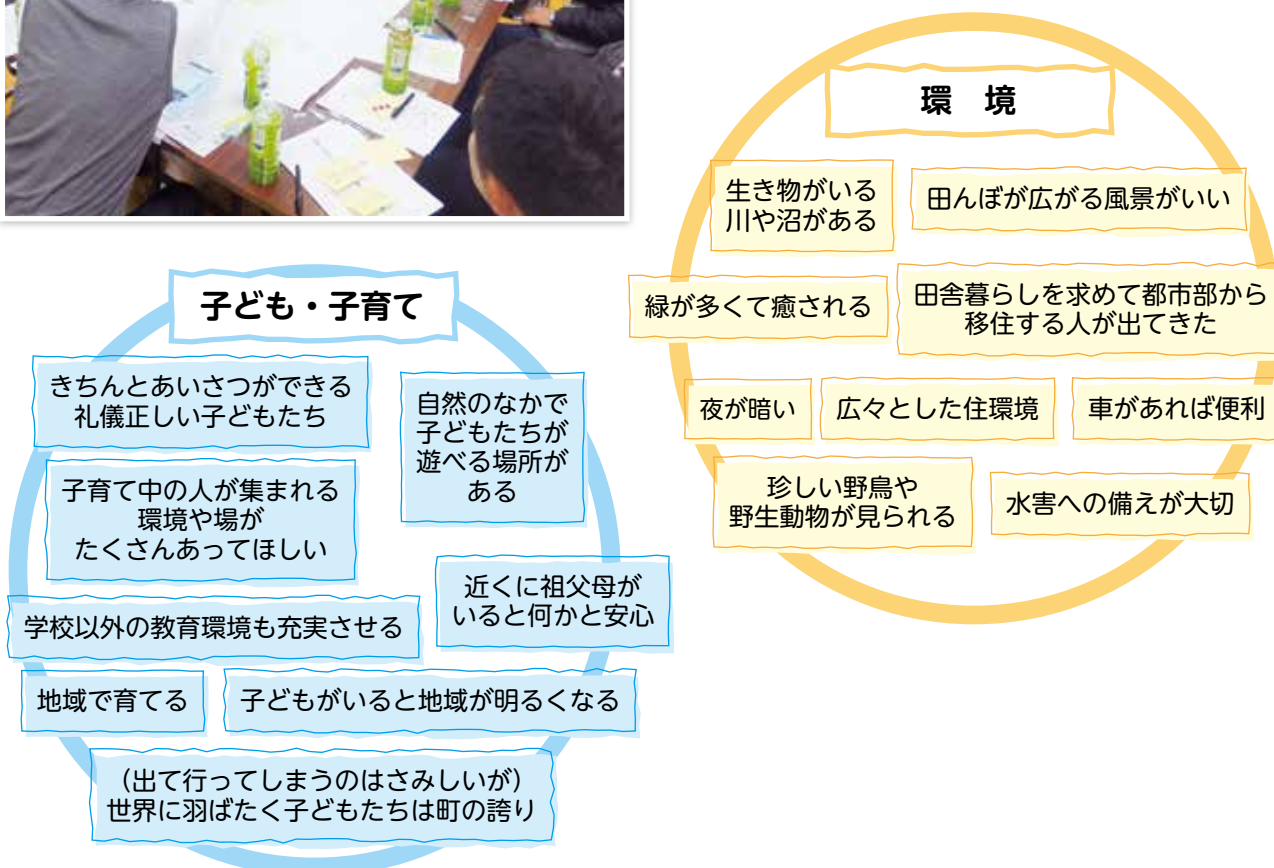
昭和45年(1970)頃まで、町の人口が減少していた時期があるんだね。  
社人研の予測どおりなら、10年後の人口は昭和50年(1975)頃(約45年前)と同じくらい。

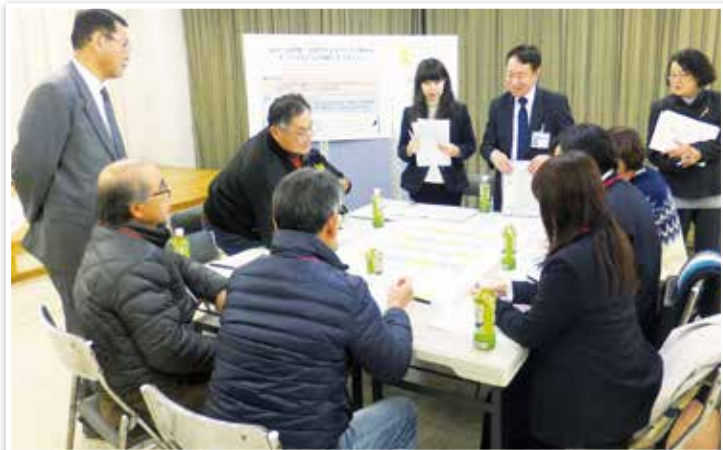
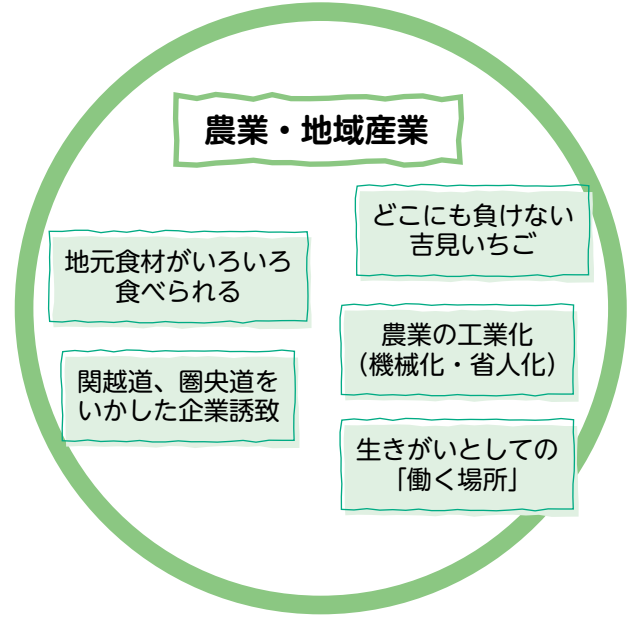
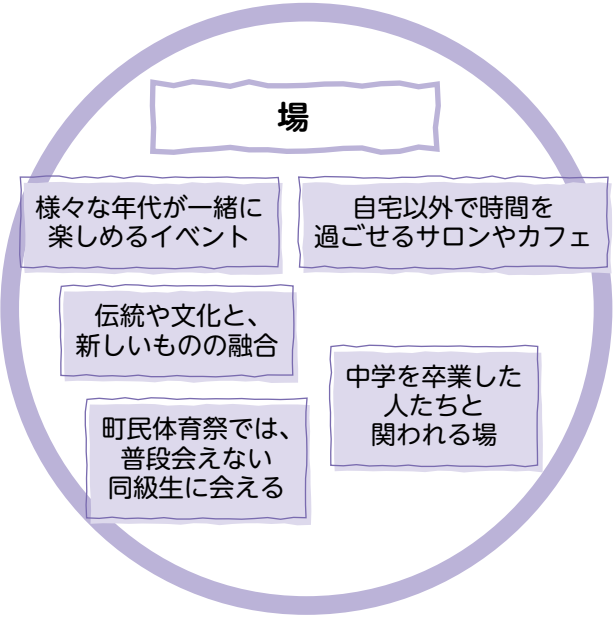
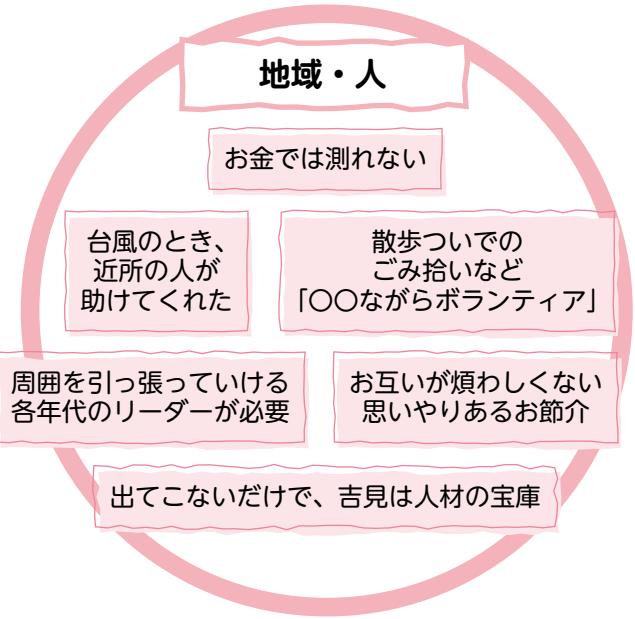


<sup>i</sup> 国立社会保障・人口問題研究所／厚生労働省の施設等機関。人口・経済・社会保障の相互関連についての調査研究を通じて、国民の福祉の向上に寄与することを目的としている。

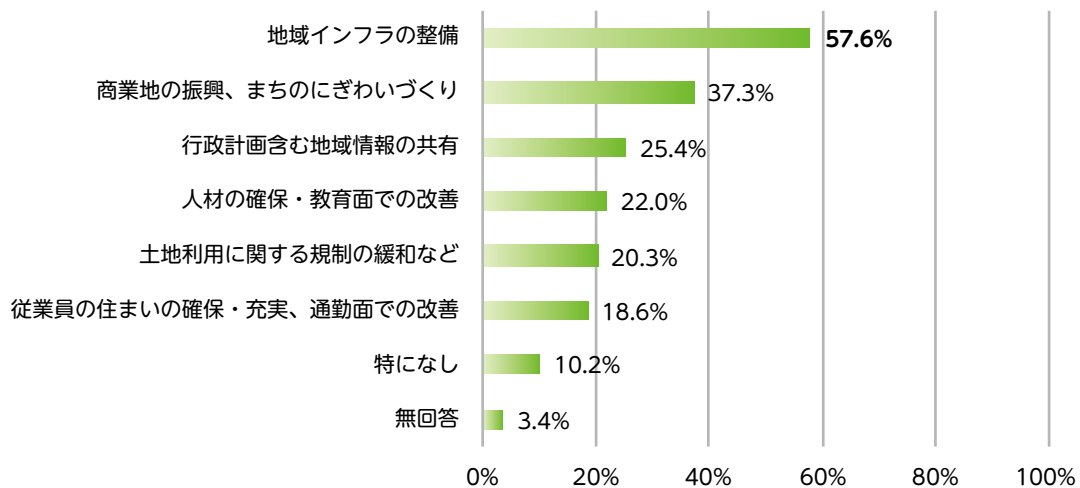
## 2. 町民のニーズ（守りたいもの・育てたいもの・求めているもの）

### ■ワークショップ





## ■町内事業者が求めていること（事業者アンケート）



※選択肢は表記の都合上、調査票の文言を一部簡略化

## 【事業者アンケート自由記述】（一部抜粋）

キーワード	具体的な要望・ご意見
人材	人材確保に苦労しており、人材に関する情報がほしい
公共交通	町外から来る人たちの交通利便性を向上させてほしい
土地利用	事務所や倉庫、工場を増設する際に利用できる商業用・工業用の区画が町内に必要（成長企業の町外転出を危惧する）
活性化提案	町の発展は周辺地域との連携が必要。周辺の魅力も発信し、地域全体を盛り上げる活動をお願いしたい
	県道4車線化に合わせた地域活性化のため新事業、新施設を検討してほしい
インフラ	町の核をつくってほしい
	道路や用水路の整備、環境美化など、町内をもっときれいに

町民の希望と似ているものがあるね。  
企業や、町外から吉見町へ来る人にも  
居心地のよいまちになると良いな。






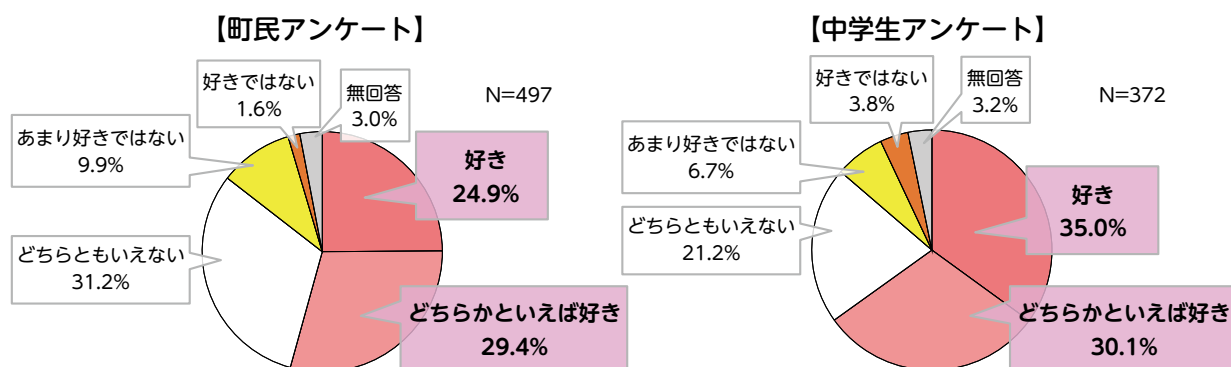
### 3. 吉見町の可能性と課題

致命的な欠点是对应が必要ですが、10年先、20年先を考えたとき、短所克服だけではなく、長所伸展による「吉見ならではの」のまちづくりを進める視点も欠かせません。

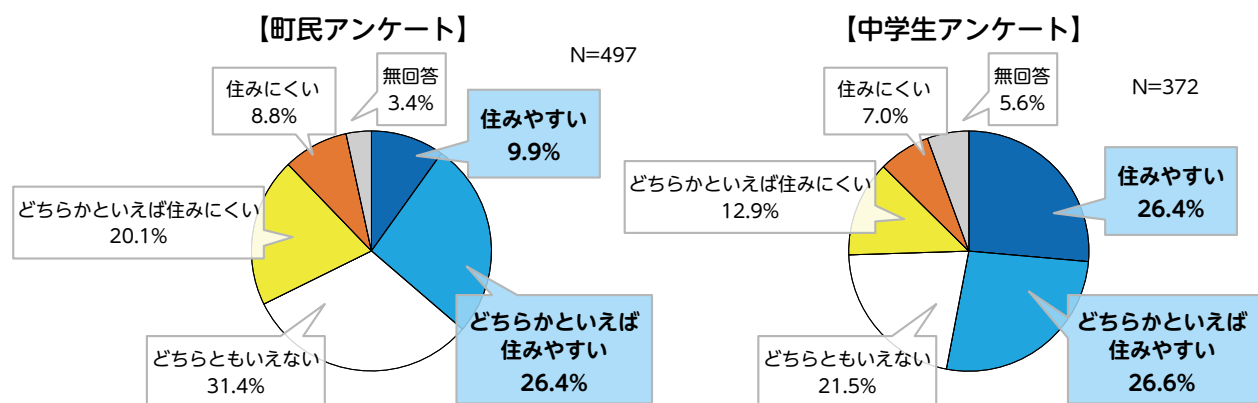
みなさんは、吉見町のどんなところが良くて、どんなところが物足りないと感じていますか。そして、吉見町にはどんな可能性があるのか見てみましょう。

 吉見町のみなさんに聞きました!

#### ■吉見町のことが好きですか



#### ■吉見町を住みやすいまちだと思いますか



大人よりも中学生の方が高評価!  
「住みやすい」とは思わないけど  
「好き」と感じている人もいるんだね。



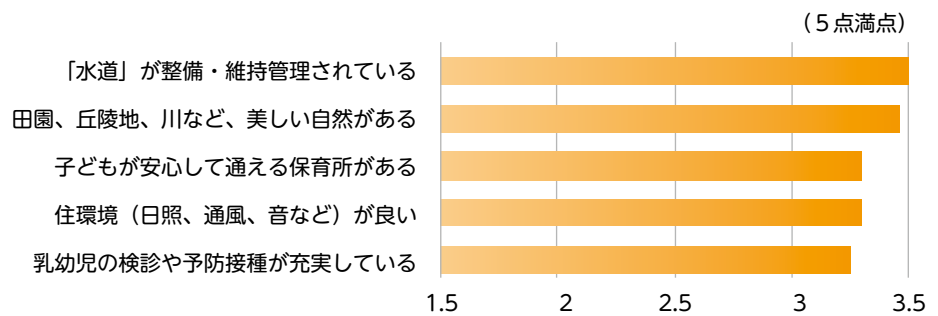
**?** 吉見町にはどんな可能性があるの？

**A** アンケートやワークショップを通じて、多くの方が「満足している」「守りたい／残したい」と答えたもの・ことがあります。

■町民の満足度評価が高い項目（まちづくりアンケート） ※一部項目名は簡潔化

**高評価**

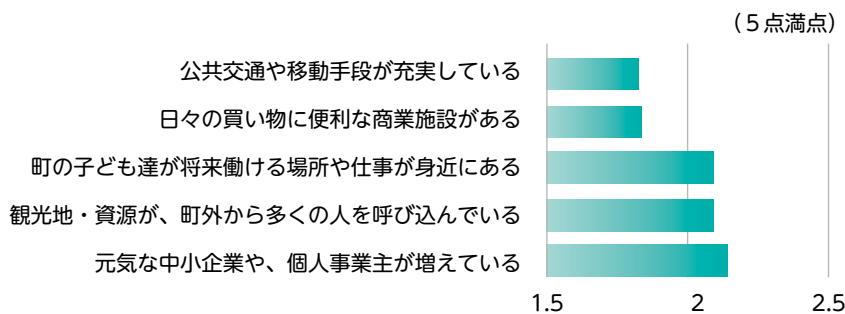
田園風景などの自然について満足している人が多い



■町民の満足度評価が低い項目（まちづくりアンケート） ※一部項目名は簡潔化

**低評価**

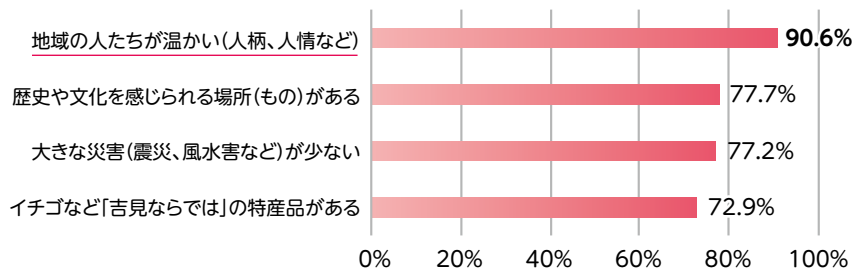
買い物と交通について満足していない人が多い



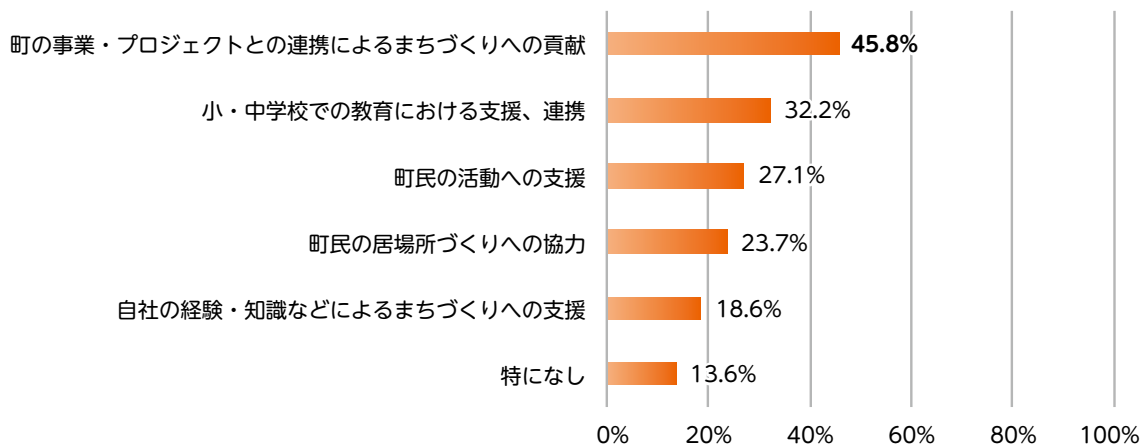
**✍** 町の中学生はこう思っているよ!

Q. 吉見町のことをどう感じていますか。（中学生アンケート）

「あいさつをしてくれる」「地域の人優しい」と多くの生徒が感じている!



## ■町内事業者が「協力できる」と考えているまちづくり（事業者アンケート）



※選択肢は表記の都合上、調査票の文言を一部簡略化



「吉見町は何もない」と言われます。「駅」、「高速道路・国道」、「総合病院」、「ショッピングモール」など、「吉見町にないもの」を挙げればきりがありませんが、『のどかな田園風景』、『広々とした住環境』、『人と人のつながり』、『おいしいいちご』など、都市部では手に入れにくいものが、吉見町には当たり前にあります。

町内事業者が「協力できる」と考えているまちづくりの分野があり、「吉見は人材の宝庫」という意見も出てきました。

吉見町にないものを持っている他地域のマネではなく、吉見町にあるものを活かして、他地域がマネできないまちづくりができるのではないのでしょうか。

## 4. 吉見町を取り巻く社会の変化



- 人口減少が顕著に
- 団塊世代<sup>ii</sup>が75歳以上に
- 段階的に税収が減少
- 団塊ジュニア<sup>iii</sup>が65歳以上に●

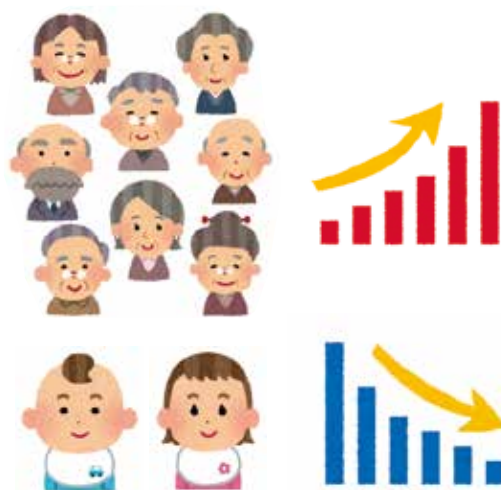
人口減少のほかにも、今起きていて、その影響がまだはっきりと表れていないものがいくつかあります。

次の6つは、今後のまちづくりにおいて、あらゆる分野にその影響が表れてくると考えられます。

### ① 少子高齢化

令和2年(2020)に75歳以上の町民は約2,800人ですが、令和12年(2030)には約4,000人になります。その後10年ほど4,000人前後で推移し、令和22年(2040)頃から徐々に減少していく見込みです。

令和2年(2020)に0歳の子どもたち約80人が二十歳になる年(令和22年(2040))に生まれる子どもの数は、約37人になる見込みです。



#### ▼「高齢者の数が増えること」が町や生活に与える影響

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| ・ 税収が増える(雇用がある場合)       | ・ 税収が減る(雇用がない場合) |
| ・ 自分らしく過ごす時間が増える(健康な場合) | ・ 老々介護が増える       |
| ・ 豊かな知識、経験を持った人が増える     | ・ 世代交代が進みにくくなる   |

#### ▼「子どもの数が減ること」が町や生活に与える影響

- |                                       |                      |
|---------------------------------------|----------------------|
| ・ 質の高い教育が実現できる(数から質へ)                 | ・ 町の活気がなくなる          |
| ・ 様々な効率化(自動・省人化、コンパクト化)               | ・ 農業の衰退(耕作放棄・担い手不足)  |
| ・ 環境に良い(CO <sub>2</sub> 減少、居住スペースの拡大) | ・ 商業の衰退(買い手の減少→市場縮小) |
| ・ 国際化が進行する(外国人労働者の増加)                 | ・ 空き家の増加             |

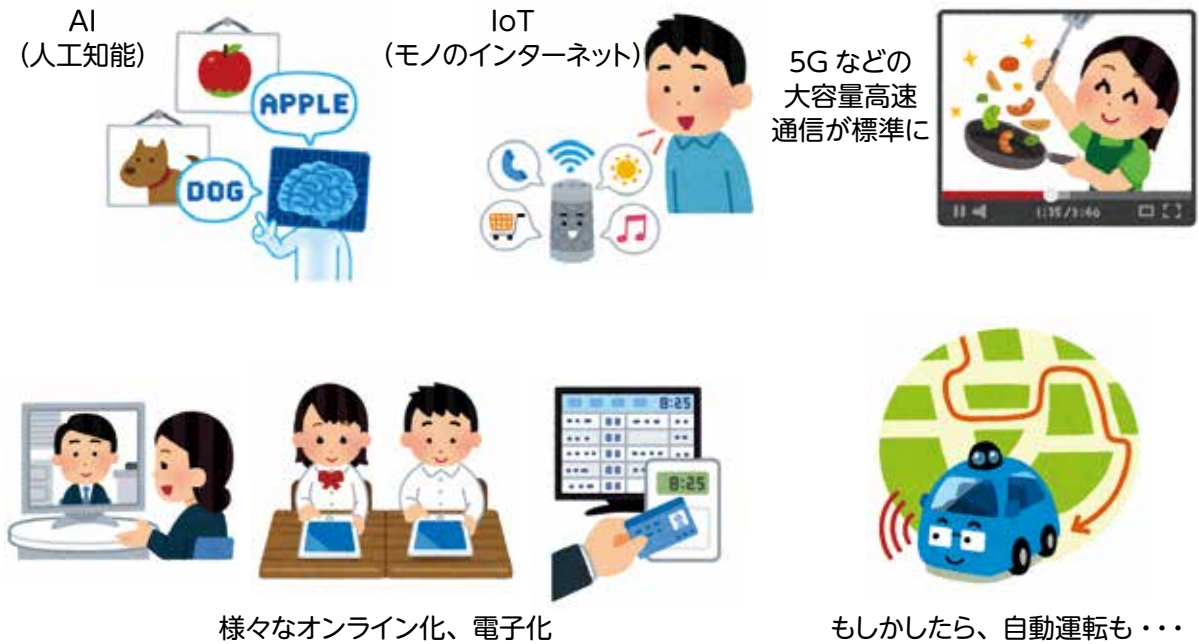
<sup>ii</sup> 団塊世代/昭和22年(1947)~24年(1949)生まれの世代(第一次ベビーブーム世代)。町民の約6.4%(約1,200人)を占める。

<sup>iii</sup> 団塊ジュニア/昭和46年(1971)~49年(1974)生まれの世代(第二次ベビーブーム世代)。町民の約5.8%(約1,100人)を占める。

## ② 便利な技術（AI、IoT、5G など）の出現と普及

政府は、人口減少や少子高齢化による「労働力の減少」という課題を前に、人工知能（AI）、IoT（Internet of Things）、ビッグデータ<sup>iv</sup>などを活用して、ロボットや自動走行車などの技術で、社会の変革（イノベーション）を通じて、経済発展と社会的課題解決の両立を目指す「Society5.0（ソサイエティ5.0）」<sup>v</sup>を提唱しています。

私たちの身の回りでも、便利な技術がどんどん「当たり前」になってきます。



### ▼ 「便利な技術が出現・普及すること」が町や生活に与える影響

- ・医療への活用（オンライン診療など）
- ・子育てへの活用（オンライン手続きなど）
- ・教育への活用（オンライン教育など）
- ・時間短縮（自由時間が増える）
- ・ペーパーレス（自然環境にもやさしい）
- ・買い物難民の減少（自動運転、自宅配送）
- ・コミュニティや人間関係の希薄化
- ・電力がないと何もできなくなる
- ・環境整備や初期投資のコストがかかる
- ・便利な技術を使える人／使えない人の格差
- ・個人情報の流出、漏えい

<sup>iv</sup> ビッグデータ／一般的なデータ管理・処理ソフトウェアで扱うことが困難なほど巨大で複雑なデータの集合を表す用語。蓄積したビッグデータを分析することで、高精度な予測が可能になるなど様々な分野での利活用が検討されている。

<sup>v</sup> Society 5.0／狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(同 2.0)、工業社会(同 3.0)、情報社会(同 4.0)に続く超スマート社会(同 5.0)で、日本が目指すべき未来社会の姿とされる。

### ③ 自然や環境の変化

- ・ 自然災害（地震、豪雨など）が頻発し、大規模化（数十年に一度が毎年のように起こる）
- ・ 災害ハザードエリアにおける防災・減災対策に関わる国の動向
- ・ 地球温暖化などの気候変動
- ・ 新型コロナウイルスなど、新たな感染症の世界的流行
- ・ プラスチックごみの輸出入等に関わる国際的な規制の強化  
→国内では 2040 年代に（ごみ）最終処分場が足りなくなると予測されています。

#### ▼「自然や環境の変化」が町や生活に与える影響

- ・ 防災意識の向上
- ・ 「エコ」に対する意識の高まり
- ・ 災害に強い施設等への更新
- ・ 災害対策や復旧等に関わるコストの増大
- ・ 農作物の生育不全（気候、病害虫、害獣など）
- ・ 環境保全と経済活動の摩擦

### ④ 人々の意識（価値観）の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染症による意識の変化  
→ 「密」を避けるために地方の価値が見直されています。
- ・ 働き方改革
- ・ 「オンリーワン」志向、「ナチュラル」志向など  
→ 人と同じであることや、経済的効率性のみを必ずしも求めない価値観
- ・ 誰もが活躍できる社会  
→ 一人ひとりが、個性と多様性を尊重され、家庭で、地域で、職場で、それぞれの希望がかない、それぞれの能力を発揮でき、それぞれが生きがいを感じることができる「一億総活躍社会」
- ・ 新しい学習指導要領で育った子どもたちが社会人に  
→ ICT 環境が整備された学校で、プログラミングなどの情報活用教育を受けた人材が社会に増えます。

#### ▼「人々の意識（価値観）の変化」が町や生活に与える影響

- ・ 新しい生活様式
- ・ オンラインやテレワークの推進
- ・ 「ワーク・ライフバランス」から「ライフ・ワークバランス<sup>vi</sup>」へ
- ・ 多様な人材や新旧世代の融合による革新（コミュニケーションが良好な場合）
- ・ 経済活動の減退や収入の減少
- ・ 価値観の対立や世代間の摩擦（コミュニケーション不足の場合）
- ・ 他人への不干渉による孤立やコミュニティの希薄化

<sup>vi</sup> ライフ・ワークバランス/ワーク・ライフバランスの「ライフ」と「ワーク」をあえて逆にし、一人ひとりの人生や生活と、収入を得ることや生きがいを感じる仕事のバランスを調和させていこうとする考え方

## ⑤ 経済を取り巻く環境の変化

- ・ グローバル化の進展
- ・ 世界人口の増加
  - 国連は、令和元年（2019）に 77 億人の世界人口が令和 12 年（2030）には 85 億人、令和 32 年（2050）には 97 億人に増えると予測しています。人口が爆発的に増加する国や地域がある一方で、日本を含む 55 の国と地域が令和 32 年（2050）までに人口減少を経験する見込みです。
- ・ 就業構造の変化
  - 「今の子どもたちの 65%は、大学卒業時に、今は存在していない職業に就く」、「今後 10～20 年で、雇用者の約 47%の仕事が自動化される」といった予測<sup>vii</sup>
- ・ インフラ（道路、上下水道、各種公共施設など）の老朽化
  - 日本の経済成長率が5%以上で推移していた平成2年（1990）前後までに建設された施設が、大規模修繕等が必要となる築後 40～50 年を迎えます。

### ▼ 「経済を取り巻く環境の変化」が町や生活に与える影響

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| ・ 国際市場や世界市場が身近に         | ・ 金融問題の世界への波及          |
| ・ 海外からの移民が増える（担い手不足解消）  | ・ 収入格差の増大              |
| ・ 多様な働き方が出現             | ・ 老朽化したインフラの維持管理コストが増大 |
| ・ 建替えや更新を機としたより良いインフラ整備 |                        |



<sup>vii</sup> 文部科学省「教職員等の指導体制の在り方に関する懇談会提言」より一部引用

## ⑥ 「持続可能な社会」の実現（SDGs）に向けた取組の世界的な広がり

### SDGs（エス・ディ・ジーズ）とは…

「サステイナブル Sustainable ディベロップメント Development ゴールズ Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、国連加盟 193 か国が平成 28 年（2016）～令和 12 年（2030）の 15 年間で達成するための目標として、平成 27 年（2015）9 月の国連サミットで採択されたものです。

SDGs には、一人ひとりがそれぞれの立場で、世界をより良くするためにできることを考え、取り組むことができるよう 17 のゴール（目標）と 169 のターゲットが示されています。我が国においても、「SDGs アクションプラン 2019」が策定され、豊かで活力のある「誰一人取り残さない」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「人間の安全保障」の理念に基づき、世界の「国づくり」と「人づくり」に貢献していくこととされています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



発想の転換  
変化をチャンスに!

 **これだけは押さえよう!**

今後 10 年、20 年で起こる変化を、「課題」ではなく  
『まちづくりの機会』として活かす視点でとらえてみましょう